「求め、探し、叩きなさい」　2023年06月23日

「そこで、私は言っておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。叩きなさい。そうすれば、開かれる。誰でも求める者は受け、捜す者は見つけ、叩く者には開かれる 。」（ルカ11：9～10）

「このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子どもには良い物を与えることを知っている。まして天の父は、求める者に聖霊を与えてくださる 。」（ルカ11：13）

主イエスは弟子たちに「主の祈り」を教えられた。主の祈りは教会で最も大事な祈りとして継承されていった。主イエスは続いて、求めることの大切さについて、譬えを用いて、話された。あなたがたの友達がいて、真夜中に、彼の所に行き、「友よ、パンを三つ貸してください。友達が旅をして私のところに着いたのだが、何も出すものがないのです」とパンを求めた。彼は家の中から「面倒をかけないでくれ。もう戸は閉めたし、子どもたちも一緒に寝ている。起きて何かをあげることなどできない」と答えるに違いない。しかし、友達だからということで起きて与えてくれないが、執拗に頼めば、起きて来て必要なものを与えてくれるだろう。主イエスは、真剣に求めれば、心を開いて求めに応じてくれると譬えられた。

こう譬えらえた後、下記のように語られた。「そこで、私は言っておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。叩きなさい。そうすれば、開かれる。誰でも求める者は受け、捜す者は見つけ、叩く者には開かれる 。」

主イエスは、癒やしを求める人に対し、何が望みかと聞いておられる。ルカ福音書18章に、エリコに近づいた時、一人の盲人が、主イエスが通りかかっていると知ると、猛然と声を張り上げ、「ダビデの子よ、私を憐れんでください」と叫び出した。エルサレムに上る緊迫した時なので、回りの者たちは彼を黙らせようとしたが、ますます、叫び続けた。主イエスは立ち止り、彼を呼ばれた。彼が近づくと「何をしてほしいのか」と問われた。彼は即座に「主よ、目が見えるようになることです」と答えた。彼の求めは目が見えるようになることであることは誰でも分かっている。しかし、主イエスは自分の言葉で求めをはっきり言うことを求められた。漠然とした求めではない。針の先のように一心に尖った求めを持つ、そして、その求めを口に出して、はっきりと表明する。主イエスはそのような求めを求めておられる。求めを持つことが希望に生きることだからである。

主イエスは、求め、探し、叩く者は、それらを得ることができると力強く語られた後、次のように言われた。あなたがたの中で、魚を欲しがる子どもに魚の代わりに蛇を与える父親がいるだろうか。また、卵を欲しがるのに、さそりを与える父親がいるだろうか。「このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子どもには良い物を与えることを知っている。まして天の父は、求める者に聖霊を与えてくださる 」、と。ユダヤ社会の家族は固い絆で結ばれていた。悪い父親であっても、子どもの求めには応えるものだ。そうならば、愛に満ちた神は求める者には「聖霊」を与えてくださる。聖霊は、復活後の五十日目のペンテコステの日に与えられたのであるが、著者ルカは、人間が真に求めるべきものは地上のあれこれではなく、最も必要な、神と結び合って生かされる聖霊であり、それを求めるならば、必ず与えられると告げている。